

仕事の言葉3

超こわい

なわたり(人生)

土派に
あつ

二の温泉の
交力能
疲労回復・冷え症、
リウマチ、人見知り、
サバが食べれる
ようになる。
など。

牛田肇



コマツの社長

仕事の言葉1082

【あのときは、よかれと考えて、決断したが】

コマツの坂根正弘取締役会長は、
2001年の創業初の赤字から
構造改革を断行し、
V字回復を達成させた人物である。

改革では、固定費が膨大に膨れていた
事業や子会社を整理し、
千百名の社員が辞めた。

この決断は、1991年のアメリカでの
経験がベースとなったという。

「当時、アメリカの工場では
リストラが急務でした。
しかし、レイオフは行わず、
ワークシェアリングで対応し、
危機を乗り越えました。

その結果、どうなったか。

日本流で乗り切った工場は、
社員との信頼関係が築られました。
ただ、反面、新たな投資を
ためらうようになったのです。

それでは、
会社の活力が失われていきます。

あのときは、よかれと考えて、
決断したのですが
レイオフしなかったのが
本当によかったのかは、

いまでも確信がもてません」

このような経験があるからこそ、
2001年には、
思い切った改革を断行できた。

結果、業績も大幅に回復し、社員数も
当時を大きく上回る社員数となった。

(THE21特別増刊号 AUG.2012、リーダーになる人が身につけておきたいこと、坂根正弘 コ
マツ)